

おコメの収量は推定180キロ余

猛暑で「やや不作」——収穫米の処理状況と収量予測

晴天に恵まれた10月23日の作業日、脱穀したあとの粃の処理が一気に進み、唐箕にかけて藁屑を除いた粃が、うるち米180キロ、もち米49キロに達した。合計229キロになる。

このあと、電動の粃摺り機にかけ、粃殻を除いて玄米を取り出し、さらに、米穀店に持ちこんで精米してもらい、糠（ぬか）を除く。その2過程で25%程度が目減りする。

もち米の一部が未処理だが、それを加えて、最終的な収量（精米後の白米）を推定すると、180キロは確実だ。新田んぼ1.2アールが増えた割には、収量が増えず、「猛暑の影響により、やや不作」という全国的な傾向をなぞる形になった。



高1の見富夏樹くんも久しぶりに参加、藁に混じる粃を選び出した＝手前。奥では、粃を唐箕（とうみ）にかけ、扇風機で藁屑を吹き飛ばした。

【うるち米……全量、唐箕にかけ済み】

16日に唐箕にかけ済み＝6袋・100キロ

→23日に日に当てて乾燥＝6袋・95キロ

（16キロ×2、17キロ×3、12キロ×1）

16日に唐箕にかける前＝4袋・73キロ

16日に藁屑と混じり＝7袋・18キロ……計91キロ

→23日に唐箕にかけ＝6袋・85キロ

（5キロ×1、17キロ×2、15キロ

×2、16キロ×1）

※ うるち米の合計が、唐箕にかけ済み状態で180キロ。

これから粃摺り、精米すると、

おコメ（白米）の収穫量は

150キロ程度の見込み。

※ 23日の湿度が低い晴天下で、乾燥・唐箕架けをしたため、重さが100→95キロ、91→85キロのように減った。



脱穀した稲に残る粃を、指でしごいて回収する。

【もち米】

21日に脱穀、唐箕にかける前＝4袋・56キロ

→23日に日に当てて乾燥後に唐箕にかけ済み＝4袋・49キロ（7キロ減）

21日に藁屑と混じりのまま

→ 2 3 日に日に当てて乾燥、未処理 → シートで包み仮保管

※ 未処理分の粃 2 ~ 3 キロを加え、唐箕にかけ済みで 5 1 ~ 5 2 キロ。
粃摺り、精米したら、おコメの収穫量は 4 0 キロ弱になるろう。

収穫祭のおにぎり、お餅に活用へ

これらのおコメはまず、11月20日（土）に催す収穫祭に提供し、うるち米約50キロをおにぎり用に、もち米30キロをお餅用に活用する。福祉施設などに20キロ程度を寄付し、残りは粃のまま保存して、来年の田植え祭などに調理して提供する。